

この有名病院のエースたち ②

末梢動脈疾患



全国に66の病院を抱える日本最大の医療グループ「徳洲会」。その旗艦病院が湘南鎌倉総合病院だ。そこから末梢動脈疾患の啓蒙と診療態勢の強化を呼びかける、小林修三センター長(日本フットケア学会理事)のメッセージは衝撃的だ。「末梢動脈疾患とは足などの末梢の血管の動脈硬化が進行、動脈の狭窄などから血流の悪化を招く病気です。ひどいところよつとした足の傷から組織の壊死・壊疽があつたという間に広がり、足の切

小林 修三 センター長
副院長

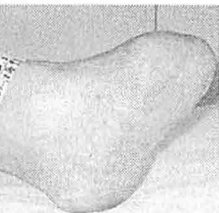
湘南鎌倉総合病院腎臓病
総合医療センター(神奈川県鎌倉市)

断に至る。最近、そんな患者さんが後を絶ちませぬ。特に動脈硬化を加速させる腎臓病や糖尿病を患っている患者や、慢性腎不全に陥り人工透析を受けている透析患者は、なぜ、足の小さな傷から切断に至ってしまうのか。動脈の狭窄や閉塞により十分な血液がケガをしたところに送り込めず、酸素や栄養の不足により足が腐ってしまうか

らだ。特に動脈硬化を加速させる腎臓病や糖尿病を患っている患者や、慢性腎不全に陥り人工透析を受けている透析患者は、なぜ、足の小さな傷から切断に至ってしまうのか。動脈の狭窄や閉塞により十分な血液がケガをしたところに送り込めず、酸素や栄養の不足により足が腐ってしまうか

86%の方が死亡しているのです。つまり足の切断は死にほかなりません。現在、末梢動脈疾患の患者は全国で約320万人、横浜市の人口と同じ患者数だ。無症状の患者をはじめ、足の冷えやしびれ、間欠性跛行(歩くとき足が痛くなるが、しばらく休むと痛みが消失する状態)など早期の足病変にとどまる患者が大半だが……。

早期発見には定期的なABIの測定が不可欠



足の切断写真

一方、末梢動脈疾患のうち安静時でも足が痛んだり、足に傷ができたります重症下肢虚血の患者さんは約18万人に達し、透析患者さんと重なるケースがきわめて多い。問題は人工透析を受けているのに末梢動脈疾患や足病変に無関心な透析患者が82%に上ること。

透析患者がこうならば、それ以外で末梢動脈疾患に関心を寄せる患者はほとんどいない、といつてもよいのではないか。「たかがちよつとした足の傷……」と軽く見て取り返しをつかぬことになる。「医療者側にも意識の醒めが認められるのは残念だからこそ透析患者はもちろん、糖尿病や腎臓病など末梢動脈疾患の発症リスクが高い患者は、自己防衛に努めなければならないのだ。」

「まず『定期的にABIを測りたい』とかかりつけ医に依頼するとよいでしょう。いまは開業医などでも受けられます」

「医療ジャーナリスト、松沢実」

小林センター長が在職する湘南鎌倉総合病院ならこういうことはないが、そうした医療機関はまだ少ないのが現実だ。日本フットケア学会のホームページで公表しているフットケア指導士と医療機関の一覧表や、「口コミ病院リスト」を参考にするのもよいだろう。